広げよう コミュニティの輪
彩の国コミュニティ協議会
No.59
2022.11

◀マスコット「サイコミ君」

目次 contents

P1 ■令和4年度定期総会開催報告
・会長あいさつ
・永年表彰
P2 ■共助事例発表会
■たまサポの紹介
P3 ■市町村コミュニティ協議会の取組
P4 ■会員紹介

令和4年度定期総会開催報告

令和4年6月6日(月)に定期総会を開催しました。永年表彰や共助事例発表会が行われたほか、事業報告や事業計画等の審議を行い原案のとおり承認されました。

会長（大野 元裕 埼玉県知事）あいさつ

彩の国コミュニティ協議会会長
埼玉県知事　大野　元裕

皆様におかれましては、日頃から環境美化や防災活動などにより、それぞれの地域社会をしっかりと支えていただき感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症という未曽有のパンデミックの中、様々な制約があり、活動についても大変な状況ではありましたが、そのような中でも、昨年度は155の事業を開催していただき、約14万人の方に御参加をいただきました。改めて、皆様のそれぞれの活動の工夫と、平素から地域の防災活動や美化活動にお取り組みいただいていることに、心より感謝を申し上げるところでございます。

さて、本県はこれまで100年にわたり人口が増加し続けてきた、日本でもただ1つの県でありましたが、本年から人口減少の時代に入り、そして高齢者の増加のスピードが日本で最も速い県になることが見込まれています。さらには、新しい生活様式、自然災害の激甚化・頻発化など大きな変化の時期を迎えています。このような時代に何よりも求められること、それは誰1人取り残さない「日本一暮らしやすい埼玉」の実現であると考えています。

このため4月からは、新しい埼玉県の第1歩を記すために新たな「埼玉県5か年計画」をスタートさせました。この計画により、人生100年時代に備え、意欲と能力に応じ生き生きと誰もが活躍ができる、そんな社会づくりを目指してまいります。また、交流や活動の活発化などを図り、誰もが参画しやすい地域づくりを進めたいと考えています。

埼玉県は昨年、150周年を迎えることとなりました。今年は、新たな埼玉県の150周年の最初の年であり、県民、企業、団体そして行政がワンチームとなって新たな未来へ1歩を踏み出せるよう、取り組んでまいりたいと思っております。

あらゆる人に居場所があり、活躍ができ、安心して暮らせる「日本一暮らしやすい埼玉」は、彩の国コミュニティ協議会をはじめとする多くの皆様の御努力と、そして協働によって実現されると確信をしております。是非皆様におかれましては、より一層の御協力をお願い申し上げます。

▲総会当日の様子

永年表彰

彩の国コミュニティ協議会及び市町村コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された6名の方に対し、表彰を行いました。当日は4名が出席し、会長（大野 元裕 知事）から表彰状と記念品のフォトスタンドが授与されました。

（後列左から）澤近氏、金子氏
（前列左から）村山氏、小倉氏

【受賞者】
村山喜三江氏　（和光市コミュニティ協議会）
小倉きよ子氏　（八潮市コミュニティ協議会）
澤近　幸子氏　（鴻巣市コミュニティ協議会）
戸口　昭一氏　（越生町コミュニティ協議会）
金子　健治氏　（越生町コミュニティ協議会）
中尾　俊彦氏　（久喜市鷲宮コミュニティ推進協議会）

彩の国コミュニティ協議会　令和4年度共助事例発表会

行田市の足袋蔵や古民家の保存・活用を通じたまちづくり

県内全域で「共助社会づくり」に取り組めるよう、共助事例発表会を開催しました。
共助の取組や手法をＮＰＯ法人 ぎょうだ足袋蔵ネットワーク 理事 朽木 宏 氏にご講演していただきました。

ＮＰＯ法人設立のきっかけ

NPO法人設立のきっかけは、忠治郎蔵の活用でした。広く皆さんに存在を知って頂こうと「手打ち蕎麦店」として開業しました。更に人が集まる場所にしたいという思いから、そば打ち教室を開始しました。平日は仕事をしているそば打ち教室の卒業生も日曜日には店の営業に参加して、地域の方との交流の場になっています。2008年からNPO法人忠次郎蔵として独立し運営を行っています。市内のイベントにも出店し、活動を広げています。

▲NPO法人 ぎょうだ足袋蔵ネットワーク 理事 朽木 宏 氏

足袋とくらしの博物館

廃業した足袋工場を改装して「足袋とくらしの博物館」をオープンさせました。行田市は足袋産業遺構がたくさんありましたが、見学施設は全くなかったため、定期的に小学校の総合学習でも利用される場所となりました。足袋職人さんにとって、みんなと一緒に活動することや蔵に来る方とお話することが生きがいとなっています。

▲足袋とくらしの博物館

点在する足袋蔵を面としてまちづくりに活かす

実際には、近代化遺産を活用したまちづくりなので、あくまで点として足袋蔵があるだけです。そのため、点と点を結び線にして、面としてまちづくりに活かしていくということでスタンプラリーを開催しています。蔵を実際に使って見せることで、来街者の「素敵な蔵ですね」という言葉から、所有者にとっては蔵の魅力に気が付く機会となります。また、他の仕事のため来街者の方が来られても御案内できないので「足袋蔵めぐりモデルコース」というのを設定してマップの作成や、説明板の設置を行い町歩きに活用してもらっています。

点と点を結んで線にして面にするということで活動していますが、なかなか点在するポイントに行かれても全体像が分からないので、蔵めぐりのスタート地点である「まちづくりミュージアム（観光案内所）」を補助金も活用してオープンさせました。

▲共助事例発表会の様子

異種混合型のコミュニティづくり

私は典型的な埼玉都民でした。行田市に戻ってきたときに地域コミュニティ「地縁型」の強さを感じ、「地縁型」と「テーマ型」を合わせた「異種混合型」のコミュニティをつくるための場所として「牧禎舎（まきていしゃ）」を活用しました。アーティストシェア工房として活用して、ワークショップも開催し地域の方との交流の場になっています。

参加者からの質問「活動を継続的に活性化させていくための組織づくりについて」

活動のキーワードは「義務感」より「楽しい」です。理事が活動を引っ張るのは必要ですが、楽しい仕掛けを作ることが大切です。市外から関心がある人が来てくれて、すごく良い言葉を残してくれることが活動している人の楽しさに繋がっています。

NPO法人・ボランティア活動をしている方、興味のある方
たまサポ（彩の国市民活動サポートセンター）を利用してみませんか

コバトン

「たまサポ」は埼玉県内の市民活動の推進と協働、県民の市民活動への参画を進めていく県域での支援機関です。市民活動の活性化とNPO法人の自立支援の強化に向け、令和4年5月26日にグランドオープンしました。

それに合わせ、これまでの知識と経験を活かして市民活動の様々な相談に対応できる「市民活動コーディネーター」を配置し、新たにNPO法人を立ち上げたい方、運営上の悩みを抱えている方をサポートしています。

また、オンライン会議などに使用できるオンラインスタジオ「たまスタ」を新たに設置し、市民活動を目的とした方にご利用いただいているほか、今後はたまサポでも動画コンテンツの作成を行っていく予定です。

たまサポでは現在、県内にあるNPO法人を直接訪問しています。活動内容を見学したり、困りごとを直接聞いたりすることで、よりよい支援の方法について検討しています。

私たちたまサポは、県内の市民活動の輪を広げるため、ホームページやSNSでその活動を紹介しています。ユニークな活動をしているNPO法人の情報をご存知の方、NPO法人とつながりたい企業の方、NPO法人やボランティアでの活動を始めてみたいがやり方がわからない方は、ぜひともたまサポにご相談ください！

▲たまサポHP

市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う事業に対して助成をしています。
今年度の助成事業について、一部御紹介します。

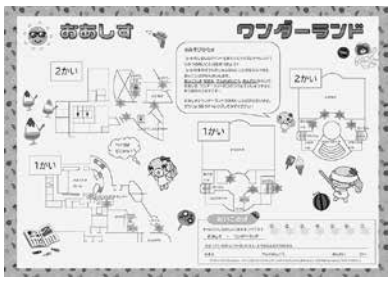
なつやすみ よしかわクイズラリー（吉川市コミュニティ協議会）

吉川市コミュニティ協議会では、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なイベントが中止となる中、コロナ禍でも子どもたちが楽しめるイベントがしたいと考え、「なつやすみ よしかわクイズラリー」と題して、新規のイベントを開催しました。

このイベントは、吉川市内の公共施設に配置されたクイズラリーに挑戦し、合言葉を集めて応募すると、吉川市にまつわるプレゼントが抽選で当たる、というものです。

各々の都合に合わせて参加していただき、密を避けながら、より多くの子どもたちに楽しんでもらうため、開催期間を7月21日から8月31日までと夏休みの期間中いつでも参加できるように設定しました。その結果、延べ700人以上の子どもたちにご参加いただきました。

今後も、感染症対策と地域活動の両立を図りながら、コミュニティ活動を推進してまいります。



大島新田調節池クリーン作戦・権現堂調節池クリーン作戦（幸手市コミュニティづくり推進協議会）

幸手市コミュニティづくり推進協議会は、市内の58団体が協力して住みよい地域社会づくりを目指して活動しています。

なかでも大島新田調節池クリーン作戦・権現堂調節池クリーン作戦は、当協議会の主要な事業であります。令和2年度と令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年度は、感染症対策をして3年ぶりの事業実施でした。多くの方に参加いただき、参加人数は両クリーン作戦を合計して1,000人を超えました。

また、この事業は広域で取り組んでおり、埼玉県をはじめ、大島新田調節池クリーン作戦では杉戸町、権現堂調節池クリーン作戦では五霞町と連携して実施しています。

地域の美化を図るだけでなく、市町の枠を越えて、それぞれの住民が同じ目的のために共に行動することに意義があるものと考えています。今後も、事業実施を通じて、コミュニティ活動の充実に努めてまいります。

花いっぱい運動（秩父市町会長協議会）

秩父市町会長協議会は市内全80町会で構成しています。活動の一環として、市内吉田地区で「シェーン吉田の会」と連携した花づくりを推進しています。「シェーン」とは、ドイツ語で「美しい・綺麗な・うるわしい」を意味します。

花の植栽を通じてコミュニティ活動の連携の強化を図るとともに、花の水やりの機会を活用して、地域や子供たちの見守り、交通安全、防犯・防災の支援等、安心・安全のまちづくり活動を推進しています。

令和4年度は約45,000株のマリーゴールドの苗を栽培し、吉田地区内の各町会・区に配布しました。毎年実施している「花のコンクール」は旧吉田町時代から続いており、今回で第22回を迎えました。

今後も引き続き、コミュニティ活性化につながる諸事業を進めてまいります。

会員紹介

彩の国コミュニティ協議会の会員様の活動を紹介します。

朝日新聞社さいたま総局

1879年に大阪で生まれた日刊紙です。県内に拠点を置いたのは1921年で、浦和通信部としてスタートしました。それから101年です。デジタル社会を迎えて、インターネットでも情報発信する姿に生まれ変わろうとしています。さいたま総局としても目指すは、紙とデジタルのハイブリッド体制です。

「夏の甲子園」に向けた高校野球の埼玉大会では近年、共催する県高校野球連盟などと協力し、全試合をネットでも中継・速報しています。音楽団体と共催する合唱や吹奏楽も一部のコンクールでネット配信を始めました。

同時に紙の新聞では、深く取材した「人間模様」を紹介するなど差別化を図っています。

活動は情報発信だけではありません。コロナ禍では、さいたま市内の販売店が店舗を無料のPCR検査場として提供しました。グループ全体でこれからも地域の発展に貢献していきたいと考えています。

▲高校野球埼玉大会開会式の入場行進

▲販売店による無料PCR検査場

(一社)生命保険協会埼玉県協会

(一社)生命保険協会埼玉県協会は、全国にある51地方協会の中の一つで、会社数24社支社数56支社(会長　麻生賢一　住友生命埼玉中央支社長)、営業職員数は約13,000名の組織です(令和4年9月1日)。

埼玉県における生命保険業の健全な発達及び信頼性の維持を図り、埼玉県民の生活向上に寄与することを目的として、会員会社と一致協力して様々な活動を展開しています。

社会貢献活動としては、①特殊詐欺被害防止活動②募金活動③献血活動を3大活動と位置付けて取り組んでおります。

11月は1947(昭和22)年に生命保険協会が制定した「生命保険の月」です。1年に一回は、ご自身の生命保険とぜひ真剣に向き合ってみてください。

人生100年時代の到来。これからも、新型コロナウイルス感染症対応等、お客さまに寄り添いその多様なニーズにお応えし続け、持続可能な社会の実現に向けた生命保険協会としての役割をしっかりと果たしていきたいと思います。

▲福祉巡回車寄贈

▲献血ポスター

▲詐欺被害防止チラシ

(社福)埼玉県社会福祉事業団

当法人は、「埼玉県の福祉の増進に寄与すること」を目的として昭和47年に設立され、児童養護施設や障害者支援施設などの入所施設や通所事業を運営しており、10月に設立50年を迎えました。

今回は地域との実践活動として、県立児童養護施設での取組を紹介します。地元企業の経営者等で構成する「児童自立サポーターズ」により就職・進学に対する意識づけや履歴書作成指導、模擬面接の実施など、時に厳しくも温かい指導を行っていただいております。地元企業等での実経験があるサポーターならではの効果的なプログラムを共同で開発する等、地域に根ざした施設運営を心がけております。

今後も児童養護施設で生活する児童が、卒園後社会人として環境に適応しながら自立した生活を送ることができるように、様々な取り組みを実施してまいります。

▲模擬面接

▲集団講義の様子

令和3年4月1日よりコミュニティ活動支援型自動販売機の設置にご協力いただいています。

支援型自動販売機で飲料を買うと、その売上の一部が当協議会に寄附され、県内のコミュニティ活動の推進に役立てられています。

編集発行　彩の国コミュニティ協議会(埼玉県県民生活部共助社会づくり課内)　〒330-9301　さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-2817　FAX 048-830-4751　ホームページ　彩の国コミュニティ協議会　検索